



視察報告

立憲・国民・無所属の会さいたま市議団は、さいたま市への政策提言を行うため、

政務活動費を使用した視察を適宜行なっています。

視察を通じ、どんな知見が得られ、

それをさいたま市にどのように反映していくかについて市民の皆様への説明責任を果たすべく、

本ホームページ上で視察報告を公表します。

「会派合流・会派名変更前のデータも公表しています。」

2009/01/30

【民主党 さいたま市議団】佐久病院視察報告

佐久総合病院 視察報告



1 視察概要

日程： 平成20年12月27日（土）

視察先： 長野県厚生連佐久総合病院（長野県佐久市臼田197）

参加者： 高柳俊哉、添野ふみ子、土井裕之、池田麻里、三神尊志

2 視察目的

佐久総合病院は、長野県佐久市にある東信地方の基幹病院である。高度専門医療だけではなく、独自の地域密着医療を行っているという特徴を持つ。地域医療・保健予防活動のあり方と、その具体的手段について特に調査すべく、視察を行った。

3 佐久総合病院について

3-1 保健予防活動

終戦直後から佐久総合病院が取り組んできた出張診療や地域保健予防活動が、昭和34年に旧・八千穂村（現・佐久穂町）の全村健康管理活動へと発展。以後、他市町村、県全体、国と比較して医療費が低下した。さらに昭和48年には長野県厚生連健康管理センターが佐久総合病院内に併設され、全県下を対象として集団健康スクリーニングを実施。全国と比較して長野県の老人医療費が最低レベルであることに、この取り組みが少なからず寄与しているものと考えられる。その他、がん検診や学童検診、予防接種などを実施。

3-2 教育・保健・福祉・地域活動

平成元年に「佐久地域保健セミナー」を、翌年には「お年寄りのケアセミナー」を開講。平成15年度に2つのセミナーを統合し、「佐久地域保健福祉大学」に改称。卒業した受講生は600人以上を数え、卒業後は「同窓会」として、地域の保健や福祉の活動を展開している。また、住民から選出される佐久穂町地域健康づくり員（旧・衛生指導員）の活動を支援・協力している。その他、JAとの連携、健康づくり・運動教室への健康運動指導士等の派遣も実施。

3-3 地域ケア活動

「生命を守る援助（在宅医療）」と、「生活を守る援助（在宅福祉）」を行う地域ケア課が活動主体となっている。訪問診療、緊急往診、専門科往診、専門科訪問医療、訪問医療サービス、居宅介護支援事業、地域包括支援センター運営事業、宅老所運営事業、訪問リハビリテーションなどを実施。

3-4 再構築計画

現在の病院施設の老朽化に伴い、現在の病院棟を地域医療センターとして改築し、新規に取得した土地に高度医療センターを新築するという内容の再構築計画が存在する。取得済みの新築予定地が工業用地であるため、佐久総合病院は佐久市に対し用途変更を求めている。しかし、当該用地近くに市民病院（国保浅間総合病院）があることから佐久市は用途変更に難色を示しており、計画は進行していないというのが実情である。この問題は、新築予定地が佐久市北中込（平成17年合併以前は旧・佐久市に属していた土地）にあり、佐久総合病院の所在地は佐久市臼田（合併以前は旧・南佐久郡臼田町に属していた土地）にあるということ、そして現在の佐久市長が合併前の旧・佐久市長を務めていたことなどから、地域対立を内包していると考えられる。

4 所見

長野県の医療は、歴史的・地理的要因から、基幹病院が高度医療とともに地域医療を担わなければならない環境にあったといえる。農業従事者が多い長野県において、「組合員・地域住民に対する保健・医療・高齢者福祉」を事業目的とする厚生農業協同組合連合会（JA厚生連）運営の佐久総合病院が、高度医療・地域医療を担うようになったことは必然的ともいえる。そのような環境の中で、佐久総合病院は、地域医療にも大きく踏み込み、地域の予防・教育活動・地域ケアに力を入れた点が特徴的である。その象徴が「5:3:2」の法則（病棟での診療5、外来での診療3、地域での活動2、に力を配分するという方針）であるといえよう。昔から、住民を巻き込んで劇団を編成し、劇の上演というわかりやすい形で保健衛生指導を行うなど、地域に密着した活動が行われている。年一回の病院祭では多数の住民が参加していることも、地域に根ざした活動が継続している証左である。結果、予防医療が成功し、医療費抑制につながっていることは、他の自治体でも大いに参考に出来る点である。また、佐久病院が行う地域ケアも、これからの日本の医療における「生命」「生活」に対する価値観をどう考えるか、という重要なテーマを内包していると感じた。